

日本の高等教育に必要な条件

現在の高等教育に求められるもの

1) 学長の指導力、教授会のあり方 = ガバナンス改革

(学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正 平成26〔2014〕年 6月27日 公布)

「個々の教員の取り組み」→「大学が組織的に提供し保証する体系」→ 「全学的な教学マネジメント」の確立

→ “学長のリーダーシップ”による全学的な合意形成

- ① 全学的なガバナンスと財政基盤の確立
- ② 教学システムの再構築
- ③ 支援するスタッフの養成や確保

2) 入学者選抜のあり方

- ① 個別入試 … 一般入試、推薦入試、AO入試の区分の見直し
- ② 達成度テスト … 基礎学力テスト、標準テスト (入学希望者学力評価テスト) ⇔ 米国のSAT (大学進学適性試験)

3) 教育の質の保証

- ① 3つのポリシーの再考 → 「策定の義務化」「公表の義務化」→ 法令化：平成29年（2017年）4月1日
どのように受け入れ、どのようなカリキュラムで、どのような学生（人材）に育てるか
- ② 学生中心の教育への転換
「何を教えたか」から「何をどう学んだか」へ
- ③ 教育情報の公開 (「大学ポートレート」＝私立大学は私学事業団が担当)
大学の教育活動の情報や学生の学修成果について
- ④ 大学支援組織の役割
専門的人材の育成、学修成果の把握方法の研究開発や大学評価方法改善による支援

4) 教育の内容、方法の改善

- ① 幅広い教養・知識・経験による汎用的能力や問題解決能力の育成
- ② 能動的な学習（アクティブ・ラーニング）への転換
- ③ グローバル化への対応、語学力の充実、ナンバリング



K.I.T. 金沢工業大学

特色

人や社会に役立つものを創造する。世界水準の教育で「イノベーション力」を高める

金沢工業大学はMITやスタンフォード大学など、世界を代表する100を越える大学、高等教育機関が参加している技術者教育の世界標準、「CDIOイニシアチブ」に2011年、国内の大学で初めて加盟しました。CDIOは、Conceive(考え出す)、Design(設計する)、Implement(行動する)、Operate(操作・運営する)の頭文字。専門知識を個人・対人スキルや、製品・システム開発スキルと同時に修得する質の高い技術者教育の実現を目指しています。

金沢工業大学は2012年度からプロジェクトデザイン教育を中心にCDIOを導入し、技術者教育のさらなる充実を図っています。

プロジェクトデザイン教育は、「自ら考え行動する技術者」を目指して、問題発見から解決にいたる過程・方法をチームで実践しながら学ぶ、金沢工業大学オリジナルの教育です。ユーザーはどんなものを必要としているのか、問題を発見し、知識やアイデアを組み合わせで解決策を創出し、具体化して実験・検証・評価する中で、グローバル人材に期待される「イノベーション力」を実践的に身につけます。

●特色を実現するための主な取組

教育内容の体系化とその充実(カリキュラム)
アクティブラーニング(教育方法)
課題解決型学習(PBL)(教育方法)

「特色を実現するための
主な取組」のリンク
付けがされている



「取組みの内容」だけでなく、「取組みの目標」、「取組みについての検証と評価」、「取組みを通じた学生の成績評価」を掲載し、取組みと成績評価の関連を明確化している

カリキュラム

教育内容の体系化とその充実

●取組みの内容

金沢工業大学は、「チームであいまいな問題に取り組み、解決すべき課題を明確にして、制約条件のもとで解決策を創出し、実施する」教育プログラムをカリキュラム全体で実施しています。

正課教育(授業)では、プロジェクトデザイン教育をカリキュラムの支柱に据え、知識教育(基礎科目、専門科目)と実技教育(実験・実習科目、コンピュータリテラシー)をバランスよく配置し、全科目でアクティブラーニングを実施することで、「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「コラボレーションとリーダーシップ」「発表・表現・伝達する力」を高めます。

さらに正課外教育(課外活動)でも124ものプログラムがあり、授業で身につけた知識・スキルを使って実社会のリアルな問題に挑む多彩な機会を設けています。

金沢工業大学では一人ひとりの学生が正課・課外プログラムに主体的に取り組むことで、人や社会に役立つものを創造できる「イノベーション力」を実践的に身につけていきます。

●取組みの目標

世界で活躍するグローバル人材とは、未知なもの、多様な解があるものに果敢に挑戦し、多様な人達と新しい価値を生み出していく「イノベーション力」のある、自律した人材でありたいと考えます。

そして「イノベーション」は、幸運やたった一人の天才の結果によるのではなく、持続的な改善や改良を組織的に行い、高い顧客価値の創造を継続的に追い求めた結果であると考えています。

一人ひとりの学生がプロジェクトデザイン教育を支柱とした体系的なカリキュラムを実践していくことで、「イノベーション力」を持つグローバル人材、「自ら考え行動する技術者」を目指します。

●取組みについての検証と評価

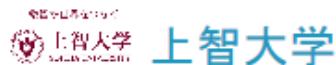
2014年3月の卒業生の就職率は98.8%。就職者全体の50.4%、つまり2人に1人が、上場企業・大手企業・公務員に就職しています。就職先も全国に広がり、50.9%が関東・東海・関西に就職しています。

この就職実績は社会が求める能力を身につけた学生たち一人ひとりの努力の成果であると考えています。

●取組みを通じた学生の成績評価

金沢工業大学では全ての科目で「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「コラボレーションとリーダーシップ」「発表・表現・伝達する力」「学習に取り組む姿勢・意欲」という、統一した5つの総合力指標で達成度を総合的に評価しています。

【学習支援計画書(シラバス)】webサイト
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/syllabus/index.html>



特色

上智の国際化

上智大学では、創立当時より国際的な視野と異文化を受け入れる幅広い視野をもった教育を希求してきました。2014年度には文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、グローバル教育の更なる改革を進めています。

現在では52カ国268校に及ぶ大学と協定を結び、毎年300名以上の学生を交換留学に送り出しています。従来、北米・ヨーロッパへ留学する学生の割合が高かったことが特徴でしたが、最近ではアジア地域への留学も増加傾向にあります。また、世界94の国から2,000人以上の留学生を受入れ、グローバルキャンパスが形成されています。四谷キャンパスに集い、議論することで、グローバル社会の縮図を経験できます。

留学生だけではなく、多くの外国人教員も教鞭を執っています。宗教や外国語はもちろん、専門分野にいたるまで、世界各国から最新かつ深い知識を備えた教員が揃い、現在では世界22ヶ国から約80人の外国人教員が在籍しています。この数は全教員数の約6分の1を占め、日本の大学のなかでは専任教員に占める外国人教員が多い大学のひとつに数えられています(2016年5月1日現在)。

●特色を実現するための主な取組

[外国人教員雇用・派遣受入\(外国人教員\)](#)

[外国人留学生受入\(外国人留学生受入\)](#)

[海外留学・スタディアブロード\(留学支援\)](#)

「特色を実現するための
主な取組」のリンク
付けがされている



「取組みの内容」、
「取組みの目標」について
しっかり説明している



外国人教員

外国人教員雇用・派遣受入

●取組みの内容

上智大学は、カトリック・イエズス会を設立母体とする大学として、ドイツ人、フランス人、イギリス人の神父により1913年に創立されました。開学当初より多くの外国人教員が在籍し、現在、22カ国84名の外国人専任教員が在籍し、全教員数の約15%を占めています。近年においては、「グローバル人材育成推進事業(2012年度)」、「大学の世界展開力強化事業(2013年度)」、「スーパーグローバル大学創成支援事業(2014年度)」の文部科学省による大学のグローバル化の取組に採択されており、大学構成員・キャンパス文化の多様性の促進に努めています。

また、設立当初よりすべて英語による授業を行っている国際教養学部のみならず、地球環境学研究科国際環境コース、理工学部英語コース(等の開設にともない、英語による授業開講のため外国人教員をさらに増員しました。2015年度には、グローバル教育センターを全学組織化し、グローバル社会に対応する多様な科目を提供するため、外国人教員の採用を積極的に進めています。

海外から実績を有する優秀な教員を新たに本学に招聘することを目的とし、2015年度より年俸制を導入しました。

●取組みの目標

今後もグローバル化を牽引する世界に並び立つ大学として、グローバル教育プログラムの整備・展開を実施します。

2013年度に、優れたグローバル・コンピテンシーを持つ真のグローバル人材育成を実現することを目指し外国語学部内に設置したグローバル教育センターを、2015年度から全学組織として展開します。また、グローバル教育センターを中心に積極的に外国人教員の受入を促進し、教育研究活動を活発化します。

さらに、教育のグローバル化を一層進展させるために、英語のみで学位を取得できる学融合型英語コースSophia English Medium Education Program(SEMEP)を増設。SEMEPは単に英語だけで学位を取得するにとどまらず、学部学科が相互に連携することで学融合型の教育課程を可能にするプログラムです。これらのプログラムの担い手として、本学独自の国際的ネットワークの活用及び国際公募実施により、グローバル教育の質向上に資する外国人教員を積極的に採用します。

2016年度には、国際通用性を勘案した評価基準に則した教員評価制度を導入し、優秀な人材の確保を実現します。



滋賀文教短期大学

特色

身近な国際交流

滋賀文教短期大学は、平成17年からタイ王国のセントジョーンズ学園と姉妹校提携を結んでおり、10周年を迎えました。同学園から毎年留学生を受け入れており、卒業生は本学で学んだ日本語を生かして社会で活躍しています。

留学生教育においては小規模短大という特質を生かしたきめ細かい教育や学生支援を実施しています。経済的支援も含めた充実した支援内容は、短期大学基準協会による第三者評価でも、「特に優れた試みと評価できる事項」として評価されました。

留学生の受け入れは、日本人の学生にも貴重な経験を得る機会となっています。タイの学生と身近に関わることができるのは、本学ならではの特色といえるでしょう。

小規模短大ですので、日本人学生と留学生が頻繁に関わることになります。ゼミやサークルの活動だけでなく、普段の何気ない会話などからも、互いの国の文化や風習の違いを知ることができます。

また、夏期休業期間を利用して本学学生がセントジョーンズ学園を訪問し、国際交流を図る研修も実施しています。

このように滋賀文教短期大学には、タイの留学生と自然に交流できる環境やアットホームな雰囲気があります。

●特色を実現するための主な取組

外国人教員雇用・派遣受入(外国人教員)

外国人留学生受入(外国人留学生受入)

海外留学、スタディアブロード(留学支援)

「特色を実現するための主な取組」のリンク付けがされている



外国人留学生受入

外国人留学生受入

●取り組みの内容

平成17年にタイ王国セントジョーンズ学園との間で、交流に関する提携を結びました。その後、国際交流の一環として同学園の留学生を受け入れています。

これまでに27人が入学し、卒業後はタイと日本の懸け橋となって活躍しています。

●取り組みの目標

留学生を受け入れることで、本学の教育目標の一つに挙げられる国際社会に生きる力を養うことを目標としている。留学生と日本人学生が交流する中で、異文化を理解し、両国の文化や歴史に興味を持つことで、自発的な国際交流が行える資質を養うことが目的です。

●取り組みについての検証と評価

留学生受け入れは、日本人学生にとっても異文化や他国の人と触れ合う良い機会となっています。お互いが交流する中で、異文化を理解する力は身についています。

また、本学はタイサークルも活動し、日本人学生と留学生がお互いの国の文化や歴史を、日タイの料理体験や歌や民族舞踊の体験などをとおして学び合っています。

留学生の受け入れによって、日本人学生、留学生、双方が楽しく学びあう環境が出来ています。



「取り組みの内容」だけでなく、「取り組みの目標」、「取り組みについての検証と評価」を掲載し、取り組みに関する評価を行っている



志學館大学

特色

地域に密着した教育・研究

本学は、これまでも地域に密着した教育や研修を目指して地道に努力を重ねてきました。志學館大学の地域社会での活動は、「生涯学習センター」「心理相談センター」を拠点として行われてきましたが、キャンパス移転後は、「発達支援センター」「地域協働センター」を加え、地域連携のための体制を強化しました。因みに「心理相談センター」と「発達支援センター」の2つのセンターを擁しているのは、九州内では九州大学と本学だけです。

志學館大学の地域協働センターは、学生の教育にも資する地域貢献活動という視点を導入した点に特徴があります。地域協働センターは、少しでも多くの学生が、少しでも多くの地域の諸活動に参加することで、より多様な経験を積んでもらうところにあります。

●特色を実現するための主な取組

特色ある教育施設・設備の整備(特色ある施設)

地域連携(連携活動)

「特色を実現するための主な取組」のリンク付けがされている



地域連携の内容について、詳しく掲載している

ポートレートをPRする媒体として使用している

連携活動

地域連携

●取り組みの内容

■ 地域協働センター

地域社会のニーズを聞き、学生や教職員とつなげる場として、地域社会とともに発展していく大学の姿を目指して活動しています。

■ 生涯学習センター

地域社会の学習ニーズに応えるべく設置しています。鹿児島県や鹿児島市、霧島市などと連携した講座も開設しています。

■ 心理相談センター

地域の方々に利用していただけるこころの相談センターとして、心理臨床的支援を地域で行っています。また、教育や医療・福祉の現場に携わる方々のための研修会やセミナー、交流の場を提供しています。

■ 発達支援センター

人は子どもから高齢者まで、その生涯をかけて発達していきます。発達支援センターはその発達の途上で何らかの躓きや生きづらさを抱えている人たちが、地域の中で再び自分の生きるペースを取り戻し、次のステップへ発達していけるよう支援を行っている施設です。

■ その他

地域活動関連科目開設、紫原まちづくり協議会(鹿児島市紫原)との協定、地域の小学校での学習支援ボランティア、地域の警察との協力による防犯パトロール、大学周辺地域の清掃活動などを行っています。



女子栄養大学

特色

建学の精神に基づいた教育

今日、学園創設時に掲げた建学の精神・基本理念に基づく本学の使命・目的は、「食によって健康を維持改善すると同時に、食に起因する全ての病気を追放し、食文化の発展により平和と幸福をもたらすこと」です。その目的達成のために、すべての教育研究活動は「食と健康」の分野を中心に展開されており、この点が本学の顕著な特徴であり、教育研究の基本方針です。こうした「食と健康」のみを専門とする大学は、国内はもとより世界的にも他に類を見ません。

本学の建学の精神・理念は、生活習慣病が蔓延する現在の日本にそのまま通用する食育の思想そのものであり、爆発的に拡大している医療費の削減にも大きく寄与するものですが、その根底にある愛と奉仕の精神は、平和で希望に満ちた幸福な未来の長寿社会の構築のために不可欠なものであります。

●特色を実現するための主な取組

[教育内容の体系化とその充実\(カリキュラム\)](#)

[資格取得\(国家資格受験資格\)\(学びの支援\)](#)

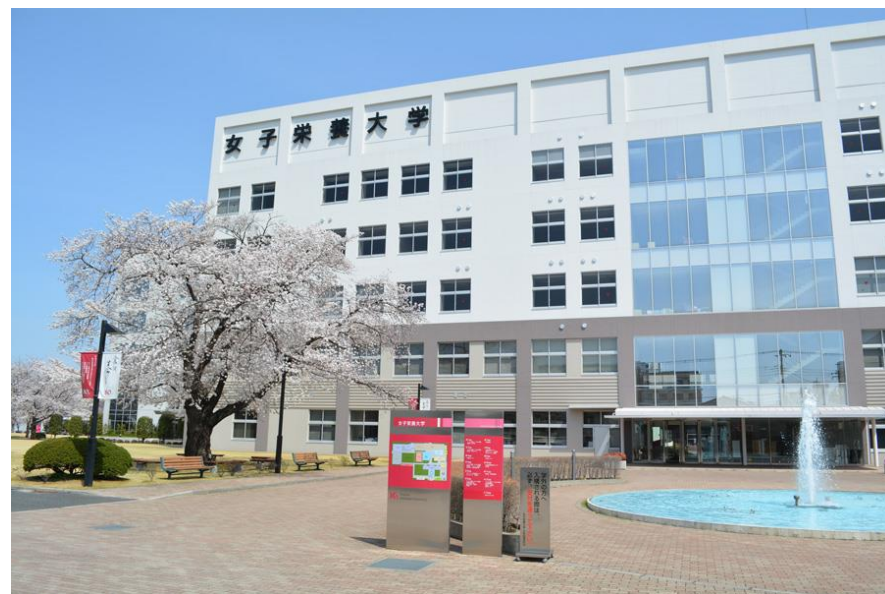
[資格取得\(国家資格受験資格\)\(進路選択教育の取り組み\)](#)

「特色を実現するための
主な取組」のリンク
付けがされている

教育サービス4つの柱



「取り組みの目標」を
掲載し、目標を明確化
している



カリキュラム

教育内容の体系化とその充実

●取り組みの内容

各学科の教育目標に沿って開講科目を分野別に系統だてて、「履修の手引き」に掲載し、学生の履修指導に生かしています。実践栄養学科では管理栄養士のコアカリキュラムに沿って体系づけ、保健栄養学科栄養科学専攻では基盤となる栄養士カリキュラムの体系の上に各コースごとのカリキュラム・マップを作成して科目を位置付けています。保健栄養学科保健養護専攻でも養護教諭の体系に応じて科目構成をしています。食文化栄養学科では学修分野に沿った科目構成を提示しています。栄養学部二部においては、社会人の再教育に目標を置いた科目構成をしています。また、大学院においても教育課程は体系的に整備されています。

●取り組みの目標

学生自身が目標を持って、また基礎から応用展開へ、技術的深化へと学修できるようなガイドとして設定しており、これを通して卒業時にディプロマポリシーに見合う知識や技術、視点や態度等を習得させます。



梅花女子大学

特色

▶ 初年次セミナー I ・BAIKAセミナー

梅花女子大学における初年次教育の試みー「初年次セミナー I」・「BAIKAセミナー」ー
本学では、本学独自の初年次教育の授業として「BAIKAセミナー」を2009年度から開始しました。2016年度から看護保健学部以外は「初年次セミナー I」にカリキュラム変更されます。

「初年次セミナー I」・「BAIKAセミナー」の授業内容は、「Ⅰ キャンパスライフをスタートしよう」、「Ⅱ 自分の進路を視野に入れながら、学びの基礎固めをしよう」という2部からなります。

Ⅰ部では、自己紹介から始まり、新入生がスムーズに大学での授業や生活に入っていけるよう、様々な支援を行います。

Ⅱ部では、大学1年次から就職を見据えて自分のキャリアを開発するという意識づけをめざしています。その意味では、本学のキャリア教育の導入授業に位置づけられています。

●特色を実現するための主な取組

初年次教育(学びの支援)

学生の心身に関する支援(学生生活の支援)

▶ キャリア教育

「特色を実現するための
主な取組」のリンク
付けがされている



「取組みの内容」だけでなく、「取組
みの目標」、「取組みについての
検証と評価」を掲載し、取組みに
関する評価を行っている



カリキュラム

▶ 初年次教育

●取組みの内容

梅花女子大学では、初年次教育の一環として、全学科の1年生が「BAIKAセミナー」(看護保健学部)または「初年次セミナー I」(看護保健学部以外)を履修します。
この科目は、卒業のために必修の単位で、キャリア基礎科目の中に置かれています。

●取組みの目標

大学入学時から、将来を見据え自分のキャリアを開発することを意識するきっかけとすることがキャリア基礎科目履修の目標です。「BAIKAセミナー」または「初年次セミナー I」では、大学での学びと大学生活の基礎を学ぶとともに、「自分を知る」、「学びを活かせる仕事を知る」ことに取り組みます。

●取組みについての検証と評価

各学科の学生のニーズによりきめ細やかに対応できるよう、梅花コミュニケーションカードおよび各学期末の授業アンケートを実施しています。通常の授業アンケートの質問項目以外に、「BAIKAセミナー」「初年次セミナー I」独自の質問にも回答してもらい、学科担当教員間の引き継ぎと併せて、毎年、全学的な授業の改善を行っています。

大学教育改革のキーワード

1	「3つのポリシー」と教育内容の体系化 (カリキュラムマップ)	11	学修ポートフォリオ	21	キャリア教育	31	学校間連携
2	ナンバリング	12	学修ルーブリック	22	インターンシップ	32	高大接続・連携プログラム
3	教養・リベラルアーツ教育	13	学修成果のフィードバック	23	資格取得	33	産官学連携
4	少人数教育	14	GPAの活用	24	学生寮	34	地域連携
5	アクティブラーニング	15	学びの組織的な支援	25	学費負担の軽減	35	教職協働
6	課題解決型学習(PBL)	16	ラーニングコモンズ	26	中途退学防止	36	大学職員の機能開発
7	サービスマーケティング	17	TA・RA・SA・メンターの活用	27	外国人留学生受入	37	ボランティア活動
8	入学前教育	18	学生アンケートの活用	28	外国人教員雇用・派遣受入	38	社会人教育
9	初年次教育	19	卒後調査の活用	29	海外留学、スタディ・アブロード	39	生涯学習
10	アセスメントポリシー	20	外部テストの活用	30	ダブルディグリー	40	ギャップ・イヤー制度

私立大学の改革提言 10カ条

1. **学長と理事長との協力とリーダーシップが重要！**
 … 教学と経営の協力体制の確立
2. **経営計画の作成と発信 ― 戦略と戦術なき経営は存在せず！**
 … 寄付と資産運用を含む「中長期計画」の作成、社会に発信 → “**リーダーズセミナー**”
3. **“3つのポリシー”による“教育の質”の向上 ― 経営は教学改革を支援！**
 … 監事の「教学監査」と積極的な情報公開 ― 教学改革なき経営改革は存在せず！
4. **役員、教員、職員の“教職協働”体制をつくる**
 … 大学は危機感の共有によって変革されてゆく
5. **“学生の視点”に立った、教育体制、事務体制を**
 … ナンバリングやCAP制、「教務の窓口対応」などの見直し
6. **教職員のスキルアップ ― 能力向上がモチベーションアップにつながる**
 … 社会の変化を察し、改革と改善を ― 大学改革を支える職員の育成 → “**スタッフセミナー**”
7. **伝統に勝る伝統づくり ― 新設校、歴史の若い大学の有利さを活かす！**
 … 社会、地域、企業などの要望に応じた速やかな変革 ― ピンチをチャンスに！
8. **地域の“知”と“笑顔”と“元気”と“活力”への貢献**
 … 学生による高校出前授業など、学生が地域の評判を作り上げる
9. **大学の特色・優れた点を再発見し、積極的に情報発信を！**
 … すべての大学にある“日本一探し”と強みの発信 → “**大学ポートレート**”
10. **私学の原点は“建学の精神と寄付”**
 … 寄付文化は大学自らの手で創り上げることが必要かつ重要